

## 東北大学附属図書館報

## 木這子

BULLETIN OF  
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

—木這子（きばこ）とは東北地方の方言で、こけしのこと。小芥子這子（こけしぼうこ）—

## 目 次

|                                                |                              |
|------------------------------------------------|------------------------------|
| ○附属図書館長に就任して…………… 1                            | ○平成9年度東北大学附属図書館職員総合研修会 …… 10 |
| ○附属図書館長退任の辞…………… 3                             | ○第29回国連寄託会議に参加して…………… 11     |
| ○シリーズ 貴重図書9—東北大学附属図書館<br>所蔵妙法蓮華経巻第八について…………… 4 | ○おしらせ…………… 12                |
| ○分館紹介（北青葉山分館）…………… 7                           | ○要項等の制定について…………… 16          |
| ○第52回東北地区大学図書館協議会総会…………… 8                     | ○人事異動…………… 17                |
| ○第38回東北地区医学図書館協議会…………… 9                       | ○会 議…………… 17                 |
|                                                | ○編集後記…………… 18                |

## 附属図書館長に就任して

附属図書館長 小 田 忠 雄



小山貞夫前館長の後任として、12月1日付けで就任致しました。

理科系教官の大部分の方々も同様だと思いますが、本館を利用する機会はこれまで殆どありませんでした。し

かし本館が狩野文庫・漱石文庫・林文庫等の貴重な資料の宝庫であることは、かねてより本誌「木這子」や本学「広報」の記事等を通じて存

じ上げておりました。今回初めてこれらの貴重資料を直接目にし、目録も拝見する機会を得ましたが、予想以上に素晴らしいもので感激しております。

就任当初に各分館に御挨拶に伺ったり、幹部職員の方々に図書業務の説明をして頂き、また駆け足で館内を案内して頂きました。小山先生に教えて頂いたり、資料を読んだりして、予め多少の心の準備は出来ていた積りでしたが、実際に現場を拝見し、予想を遥かに越えるスケールの大きさに圧倒されているところです。

研究上・教育上での図書への関わり方は、専門分野によって相当異なるようです。単行本として出版された研究情報は言うに及ばず、学術雑誌に印刷公表された論文ですら速報性に欠けるといった最新の研究情報の重要性が極端に高い分野では、従来の形での図書よりも、電子化された研究情報の同時受信が相当前から盛んなようです。一方古い文献資料が研究対象として極めて重要な分野では、資料に含まれた文字情報のみならず、書き込みや体裁等の情報も含めた資料全体が大きな価値を持つでしょう。

私の専門とする数学では、学説の変化が考えられず、一度証明されたものは永久に真理であり続けますので、古い文献の持つ研究上・教育上の価値はいつまで経っても減少しません。数々の大理論が生み出された末に、数年前にワイルズによって350年振りに遂に証明されたフェルマーの予想は、元はと言えば伊達政宗公の時代のフェルマーによる本の余白への書き込みが発端となったもので、漱石文庫に含まれる本のように、書込みのある現物自体が時として重要となります。他方では、最新の電子化された情報も極めて重要な役割を果たしています。私自身の場合にも電子的に受信・発信する論文情報であるいわゆるEプリントなしには研究が進まなくなっています。論文のプレプリントや別刷を互いに送り合う慣習も次第に薄れつつあります。

ところで附属図書館の初代館長であられた林鶴一教授とは、専門が同じ数学であるということ以外にも御縁があります。本学創設当初に林先生がポケットマネーで創刊され、その後本学発行となった東北数学雑誌 (Tohoku Mathematical Journal) の編集主任をつい先日まで約

20年間勤めさせて頂いたことです。本誌は、本邦で最長の歴史を誇る欧文の数学研究専門誌であり、雑誌交換や丸善を通じての市販により世界中の殆どの数学研究機関に常備されています。国内・海外のレフェリーによる厳密な査読を経た質の高い論文のみを掲載しますので権威も高く、本誌の各号は被引用文献データベースである Science Citation Index のための基礎資料の一つとしても使われています。

図書館は、研究情報の受信と保存の役割を担っている訳ですが、我国からの研究情報の発信も劣らず重要です。林先生は創設当初から研究情報の世界的な受信・発信双方の重要性を認識されかつ実行されていたことになります。

電子メディアは急速に発展しており、1年前と現在との差の大きさを日々実感させられています。CD-ROM やインターネットを通じての電子的な学術2次情報検索は言うに及ばず、電子ジャーナルの形での学術雑誌という1次情報の電子的利用も始まっています。しばらく前には夢物語であったネットワークを通じた1次・2次情報の全学的共有も可能な時代になりました。貴重な資料をマイクロフィルムに納めて利用する他に、インターネットのホームページ上で電子的に一般公開することも一層盛んになることでしょう。

私の任期は2000年11月30日までですので、20世紀に残された最後の3年間の殆どの期間を館長として勤めさせて頂くことになるわけですが、それまでに予想される激動の時代を乗りきり、21世紀に悔いを残さないように努力致したいと存じますので、どうか御協力・御鞭撻の程をお願い申し上げます。

(おだ・ただお)

このページは  
著作権処理の都合上、  
ご覧いただけません。

このページは  
著作権処理の都合上、  
ご覧いただけません。

**このページは  
著作権処理の都合上、  
ご覧いただけません。**

**このページは  
著作権処理の都合上、  
ご覧いただけません。**

## 北 青 葉 山 分 館

北青葉山分館は丘陵地青葉山の北側に位置し、理学部・薬学部キャンパスのほぼ中央にあります。

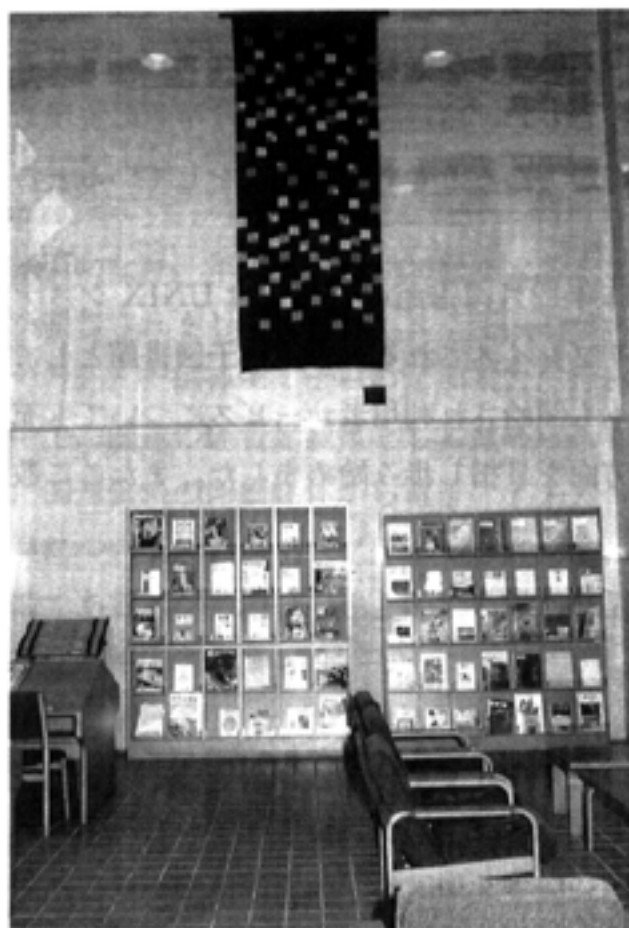
清流広瀬川を眼下に緑豊かな自然環境は、伊達政宗の築城した青葉城の一遇でもあり、藩政時代の植生がそのままの形で残されていると言われている。

晴れた日には西に奥羽の山脈を望み、東に市街地のかなた水平線には太平洋を眺望することができます。

分館は理学・薬学を主題領域とする専門図書館として昭和60年11月に竣工されました。鉄筋コンクリート三階建て、総面積3,356㎡で、32万冊の単行本と約7,500種類の定期刊行物が所蔵されており、ベージュ色総タイル張りの外観は北青葉山地区のシンボルとなっております。

本学関係者及び卒業生から寄贈されたタビストリー・彫刻等で飾られたエントランス・ホールや、各所に絵画を配した閲覧室は利用者に気持ちのよい雰囲気を出しております。

分館はそれまで理学部各学科図書室および薬学部図書室にあった蔵書を移転整備し、集中的に管理することにより開館されました。両学部の歴史の古いことから分館にしか所蔵のない資料も多く、学内はもちろんのこと学外の利用も



「木もれび」

高く特に文献複写サービスは年々増加しています。

雑誌については来館すればいつでも利用できるよう、製本・未製本とも原則として館外貸出は行っておりません。新着雑誌についても大部分は館内に展示しており、研究者に対してはコンテンツ・シート・サービスを行っております。また閉館後（午後8時以降）も学内研究者（理・薬学部に限る）に対しては、入室管理装置の設置によりカードシステムにより24時間利用が可能となっております。

分館は築後12年を迎えようとしています。年々増加する資料あるいは研究室からの返却図書等により書庫スペースの狭隘化は深刻なものになってきており、新館の建築はいよいよ緊急を要することとなっております。

また自然に恵まれてはおりますが、夏場はけ



「古代からのメッセージ」

して快適な閲覧環境とは言えません。窓を開放するたび自動車の騒音に悩まされることが多く、雨天強風時には館内に風雨が吹き込むこともままあります。夜間には虫が入ってきたり、本の大敵カビなど対策を講じなければなりません。とりわけ冷房設備の設置は早急に実現したい課題であると考え予算要求をしているところです。

昨年12月図書館の電算化はUNIX システムにリプレイスされる一方、電子図書館としての試みも開始され利用者サービスについても充実の方向を目指し歩み始めました。またここ数年

インターネットの普及は目を見張るものがあり、あふれかえる情報の中から利用者にとって有効で且つ最新の情報をいかに取り出していくのか、図書館サービスについて少なからず変化が求められる時期にきていると思われます。教育・研究支援のための図書館であることを念頭に、様々な創意・工夫で新しい波を乗り越えていかなければならないと考えます。

所在地 仙台市青葉区荒巻字青葉 〒980-8578

電 話 022-217-6368

F A X 022-263-9210

## 第52回東北地区大学図書館協議会総会

第52回東北地区大学図書館協議会総会は、平成9年9月17日～18日の両日、東北工業大学を当番館として同大学を会場に加盟館から52館（新規加盟館を含む。）91名の参加を得て開催された。

当番館東北工業大学大森事務長の司会により開会され、東北工業大学附属図書館長代理の開会挨拶、岩崎俊一同大学学長の歓迎挨拶、常任幹事館の東北大学小山附属図書館長の挨拶があり、議事に入った。

本総会では、永年勤続表彰について、元弘前大学附属図書館阿部洋子氏、同館佐藤信政氏、元東北大学附属図書館佐藤定夫氏、元福島大学附属図書館田中 進氏及び元郡山女子大学図書館島田フミ氏の5名に対し、永年にわたる図書館活動並びに本協議会への貢献をたたえ、常任幹事館長より所属図書館長を介して退職時に表彰状と記念品の伝達が行われた旨の報告があった。

総会における主な協議事項並びに各部会での協議事項は以下のとおりである。

### （1）新規加盟について

宮城大学総合情報センター及び山形県立保健医療短期大学附属図書館から新規加盟についての要望が出され、満場一致で加盟が承認された。

### （2）電子図書館への対応について

### （3）洋雑誌の購入価格について（承合事項）

### （4）役員館の改選について

### （5）第54回総会以降の当番地区について

### （6）平成9年度の合同研修会について

総会の後、各部会に別れて部会が開催された。

#### 国立部会

### （1）電子図書館への対応について

（2）行財政改革が進む中での図書館のあり方について

### （3）その他

#### 公立部会

### （1）電子図書館への対応について

### （2）図書館スペースの効率的利用について

### （3）その他

私立部会

- (1) 電子図書館への対応について
- (2) その他

本協議会は、昭和22年に「東北地方大学高等専門学校図書館協議会」として発足して以来、本年5月に50年を迎えたことにより、第1日目の総会の後に50周年記念式典が開催され、筑波

大学前図書館長北原保雄氏による「これからの大学図書館」と題して記念講演が行われた。また、50周年記念事業として、本協議会加盟館の相互利用のマニュアルとして「東北地区大学図書館要覧」を発刊することとした。

次回総会は、青森公立大学が当番館として開催することとなった。

## 第38回東北地区医学図書館協議会

標記協議会は、平成9年10月31日（金）、当番館福島県立医科大学附属図書館（福島グリーンパレス）を会場として、加盟館7大学から館長（分館長）及び主任司書15名が参加して開催された。

議事に先立ち正木事務長から挨拶があり、会則に基づき議長に当番館の福島館長が選出され、出席者の自己紹介の後、議事に入った。報告事項、協議事項及び承合事項等は以下のとおりである。

報告事項：①各館の近況報告、②日本医学図書館協会理事会報告、③日本医学図書館協会評議員会報告、④BLDSC（The British Library Document Supply Center）文献複写利用報告。

協議事項：①第71回日本医学図書館協会総会当番の引受け及び代表機関の決定について、②電子ジャーナルの利用について、③日本医学図書館協会理事候補者の推薦について、④第69回日本医学図書館協会総会における東北地区からの提出議題について、⑤次期評議員（館）の

選出について、⑥次期当番館について、⑦教育・研究担当理事からの研究集会の引受け打診について。

承合事項：①外国雑誌の値上りとその対応について、②共同購入雑誌のタイトル数見直しについて、③図書館業務の実情について。

特に、外国雑誌購入経費の増加に対し、各館とも見直し（中止）を実施して対応しているが、地区内で分担収集する等の方策を検討する時期にきているのではないかと、その分ILLに対する依存度が増し、業務を圧迫する原因にもなっている等、図書館業務の現状について活発な意見交換が行われた。

また、第71回日本医学図書館協会総会当番の引受け及び代表機関として秋田大学附属図書館医学部分館を内定、次期評議員（館）に東北大学附属図書館医学分館を選出、次期当番館には山形大学附属図書館医学部分館を決定し、会議を終了した。

（医学分館）

## 平成9年度東北大学附属図書館職員総合研修会

今年度の附属図書館職員総合研修会は「電子図書館」をテーマとして以下のプログラムで開催されました。

日 時：

平成9年11月13日（木）13：30～16：30

場 所：

附属図書館2号館大会議室

講 演：

「電子図書館とその要素技術～メタデータ」

永田治樹 氏（図書館情報大学助教授）

「電子メールとは？」

川村 眞 氏（大型計算機センターネットワーク掛主任）

「電子図書館」という用語が氾濫する中で、その具体的な何かを知り得る機会を目的とし、今年度の職員総合研修会を企画いたしました。

永田氏の講演では電子図書館へと進展して行く図書館機能要素を、これまでの物理的な図書館機能と対比した上で、データ・メタデータ・プロセスと捉え、特にその中のメタデータについて、世界的なこれまでの経緯と今後の方向性について解説していただきました。

「EAD」「IAFA」「TEI」「URI」等の用語を初めて耳にされた方々も多く、多少戸惑いがあったかと思いますが、「ダブリン・コア」の動向についての解説など、メタデータへの図書館の関わりを通して、学術情報の流過程に存在する図書館が、電子図書館へと展開の姿を思考するためのひとつの糸口になったのではないかと思います。

尚、永田氏より参考として以下をご紹介します。まだ読まれていない方はご一読されることをお勧めいたします。

「学術情報と図書館 / 永田治樹著。－東京：丸善，1997.5.」

後半のプログラムでは川村氏に、「電子化」におけるインフラストラクチャとも言える電子メールの特徴・システム・利用する上での注意点などについて平易に解説していただきました。

環境整備が進み、電子メールの利用が日常化している中で、システムについて不明だった点や、利用する上で不安に思っていたことや疑問点などについて知り得る機会となり、今後、業務等で電子メールを利用するために有意義であったと思われます。

研修会には、雨天にもかかわらず、学内外から約60名程の方々に参加していただき、また、研修後に実施したアンケート調査の結果からも概ね、職員総合研修の目的を果たした研修会であったと思われます。

最後にこの度の研修会開催にあたり、ご協力いただきました関係者の方々に御礼申し上げる次第です。



（平成9年度東北大学附属  
図書館職員総合研修委員）

## 第29回国連寄託会議に参加して

情報管理課逐次刊行物掛 對 馬 庸 二

昨年、当館に於いて催されたこの会議は、今年、北海道大学附属図書館を会場として平成9年10月2・3日の2日間にわたり開催されました。附属図書館（本館）は北海道大学のキャンパスの南側に位置し、クラーク博士の胸像や古河記念館などに程近く、周囲は好天の下、美しい秋の風景を見せておりました。

第1日目は開会挨拶・参加者自己紹介および各館活動報告・レファレンス事例研究・講演・館内見学、第2日目は研究報告・国連広報センターからの報告・その他討議・閉会挨拶という内容で会議が行われました。

レファレンス事例研究は、事前に各館から報告されたレファレンス事例に対して、参加者から様々な提案・助言・質問等が行われる形態で進められ、多岐にわたる国連資料に関するレファレンスについて、日常現場において必要とされる知識を習得する勉強の場であり、この会議において中心になる内容のひとつになっています。参加者の経験の度合いによりレファレンスに関する知識の差がかなり存在し、今年度担当係へ異動した私のような者にとっては、新たに知り得た、また、初めて聞くような事項が多々ありました。インターネットが普及したことを反映してか、レファレンスの助言として、国連の特定のWWWページを紹介するケースがかなり多かったようでした。

第1日目午後「世界の変化と縦割りの対応の限界」と題して北海道大学名誉教授の曾野和明氏による講演が行われました。曾野先生は長い間国連機関のメンバーを務められ、国連の内情や国連資料にも大変精通しておられ、国連寄託図書館のこれからの姿についても言及されました。国家主権と国際社会の関わりの中で、文化を大切にしながらも国家の枠を超え、新しい国際秩序を創生しようとする世界の変化につい

て語られ、非常に興味深い内容でした。

第2日目には研究報告が行われ、サービス開始予定のUN-ODS(Optical Document System)について、寄託図書館の場合、利用料金が割引になり、年間約\$15,000程度であること等が報告されました。また、タイ王国のバンコクで行われた国連セミナーの参加報告が行われた中で、国連の経費節減策として進められている、国連資料の印刷媒体から電子メディアへの転換について、通信インフラストラクチャが未整備であるアジア地域の途上国での対応に関する懸念が報告されました。

国連広報センター(UNIC)からの報告、および、討議の中ではインターネットの普及により利用者が自分で国連資料を探することができる環境が整ってきた状況を踏まえて、今後の国連寄託図書館のあり方について活発に議論が行われました。その中で、UNICから、国連に対する認識を事実に沿い、より現実的なものとするためにも寄託図書館は国連広報活動のひとつの機能として、より前向きに活動することを望む意見が出されました。

当館は国連寄託図書館ばかりでなく、EU資料センター等の国際機関資料を取扱っておりますが、国際機関資料を取扱っている図書館としての立場を十分に認識し、今後の寄託図書館としての方向性や利用者への積極的な広報活動等のサービス展開について、重要なサービス要素として、考える必要があると思います。

今回、この会議に参加し、他館の活動やスタッフの研鑽を垣間見ることが出来たことは私にとって大変有意義なものとなりました。今回、私に会議に参加する機会を与えていただきました関係者の方々にこの場を借りまして感謝申し上げます。

(つしま・ようじ)

## 〈お 知 ら せ〉

### 貴重書画像を電子的に公開

～東北大学附属図書館所蔵「貴重書展示室」～

附属図書館では、本館が所蔵する国宝・貴重書等を広く公開を図ることを目的として、WWW上に「貴重書展示室」を設け、平成9年12月1日より一般に公開することになりました。

図書館ホームページ (<http://www.library.tohoku.ac.jp/>)に、リンクがありますので、ここからアクセスを行ってください。

東北大学附属図書館所蔵

## 貴重書展示室



|        |          |          |       |
|--------|----------|----------|-------|
| 国宝・大蔵経 | 総記・雑書    | 哲学・宗教・教育 | 歴史・地理 |
| 語学・文学  | 美術・工芸・技芸 | 法律・政治・経済 | 数学・理学 |
| 医学     | 工学・兵学    | 漱石文庫     | 洋書    |

このページ及びこのページからリンクする画像及び文章の無断複製・再配布を禁じます。

(<http://www.library.tohoku.ac.jp/>)

今回、公開を行った内容は、国宝2点を含む貴重書等110点から、のべ300枚の写真を撮影したものに、簡単な紹介を付したものです。

本学図書館においては、狩野文庫をはじめとした古典籍、和算関係資料、ヴント文庫・ゼッケル文庫等の西洋古典資料など、重要なコレクションを数多く所蔵しております。これらの貴重資料については、保存上の観点から利用を制限せざるを得ない状況にあります。しかし、一方では公開を望む声も数多く寄せられておりま

す。

Internet 及び電子化の技術の進展によって、「保存」と「公開」という相反する要請を同時に満たすことができるようになりつつあります。今後は、個人文庫コレクションの紹介や、特定の主題に関する資料の紹介などを、定期的に追加して行きたいと考えております。

この「貴重書展示室」を是非一度ご覧いただき、ご意見等がありましたらお寄せいただければと思います。

(電子図書館システム委員会資料電子化班)

## 東北大学附属図書館所蔵 貴重書展示室 展示一覧

### 【国宝】

- 1 類聚國史 卷第廿五 菅原道真撰 平安末期寫 卷子
- 2 史記 孝文本紀第十 (漢) 司馬遷撰 (劉宋) 裴駰集解 延久五 (1073) 寫

### 【総記・雑書】

- 1 五色類纂 村田了阿編 五冊 稿本
- 2 後編言葉の塵 司馬全交 (近松門笑) 編 天保一三 (1842) 序
- 3 雑話奇傳 佐藤雄副編 三卷三冊 自筆本 (絵入)
- 4 都宜々々辨 蒼松山人編 六卷六冊 原本 (彩色)

### 【哲学・宗教・教育】

- 1 澤庵禪師詩歌集 附夜話集 三字経解 釈宗彭 (沢庵) 四冊 写本
- 2 甲州身延山久遠寺總繪圖 釋禪妙撰 延宝二 (1674) 刊本 (彩色)
- 3 日光御祭禮奉行留 (文政十三) 三宅康直撰 天保四 (1833) 記 自筆本
- 4 百萬塔陀羅尼 塔共 法隆寺旧蔵
- 5 長安寺銅板法華經 妙法蓮華經經卷第一 (序品第一・方便品第二)
- 6 銅板法華經 妙法蓮華經經卷第一 (序品第一・方便品第二) [(後秦) 鳩摩 羅什譯] 井上三郎侯爵旧蔵
- 7 稱讃浄土佛攝受經 (唐) 釋玄奘譯 卷子 清衡允願經
- 8 周易 一〇卷 (魏) 王弼 (晉) 韓康伯註 慶長一〇 (1605) 活字刊本
- 9 論語 一〇卷 (魏) 何晏集解 正平板 無跋

### 【歴史・地理】

- 1 陸奥州驛路圖 二卷 原本 (彩色) 卷子
- 2 江戸大繪圖 元禄二 (1689) 京都林吉永板
- 3 御開港横濱之全圖 橋本謙 (玉蘭齋) 画 安政六 (1853) 江戸丸屋徳藏 刊本 (彩色)
- 4 京大繪圖 貞享三 (1686) 京都林吉永板
- 5 國寶大坂全圖 文久三 (1863) 大坂積典堂板
- 6 萬暦年間北京城内圖 一幅 (彩色) 明刊
- 7 八丈物語 歌川一玉齋畫 原本 (彩色)

- 8 倉持文書 一卷（三六通）卷子
- 9 三國通覽圖説 附圖五幅 林子平撰 六冊 天明六（1786）年江戸須原屋市兵衛板 写本（付図 彩色）
- 10 海國兵談 林子平撰 一六卷 寛政三（1791）年林子平板

【語学・文学】

- 1 つれつれ草 釋兼好撰 嵯峨本雲母刷 活字刊本
- 2 風流鏡が池 獨遊軒梅吟撰 江戸平野屋吉兵衛 寶永六（1709）刊（彩色）六 卷六冊合
- 3 千両眞珠 文化至天保年 六七卷一五冊 刊本（絵入）
- 4 伊勢物語 也足叟（中院通勝）訂 慶長一三（1608）活字刊本 嵯峨本五色刷 也 足叟花押あり
- 5 ふんしゃう 三卷三冊 写本（彩色）奈良絵本
- 6 竹とり 三卷三冊 写本（彩色）奈良絵本
- 7 陸奥紀行 宣俊撰 良卜写 坂口員正画 寛政八（1796）写本（彩色）
- 8 王状元集百家注分類東坡先生詩 二五卷（宋）王十朋編（宋）劉辰翁批点

【美術・工芸・技芸】

- 1 笛之記 天文六（1537）写本
- 2 無題巻物（谷文晁東北地方寫生圖） 谷文晁画 卷子（原本）二卷
- 3 松島洲嶼眞圖 写本 卷子
- 4 臨顯檀之女史箴卷 小林古徑・前田青邨撰
- 5 北京風俗図譜 青木正児編 一一七枚八帙 劉廷年図 原本
- 6 吉原傾城新美人合自筆鏡 北尾政演畫 天明四（1784）序江戸蔦屋 重三郎板
- 7 百人女郎品定 二卷 西川祐信畫 刊本 享保八（1723）八文字自笑序
- 8 公平かぶとろん 寛文三（1663）京都山本九兵衛板
- 9 今様 写本
- 10 水滸傳豪傑百八人 歌川國芳畫 一二枚 刊本
- 11 海幸 勝間龍水畫 石壽觀秀國編 江戸伊勢屋治右衛門 寶曆一二（1762）刊本 二卷 二冊
- 12 山幸 勝間龍水畫 石壽觀秀國編 江戸大阪屋平三郎等 明和二（1765）刊本 二卷 二冊
- 13 根無艸四十八文字 久多良圖屋登無知喜作 写本（彩色）
- 14 仙臺祭禮行列 松村月溪写 二卷 写本 卷子
- 15 君臺觀左右帳記 眞相撰 永禄二（1559）寫 卷子
- 16 鷹野繪巻 下 狩野榮川畫 一帖 自筆本
- 17 行幸御成獻立仕建 森勝氏等伝 文政一一（1828） 写本
- 18 餅菓子即席増補手製集 十返舎一九編 文化一〇（1813）序刊本（絵入） 江戸村田屋次郎兵衛
- 19 包丁賦次第 原本（絵入）
- 20 飲膳拾二卷之部 明和六（1769） 原本（挿画彩色）
- 21 菓子譜 二卷二冊 原本

【法律・政治・経済】

- 1 塵芥集 伊達植宗撰 写本
- 2 五節舞姫 齋藤彦磨写本（彩色）
- 3 鯨一件之巻 木崎盛標（悠々軒）撰 安永二（1773）原本（彩色）
- 4 運河繪圖 写本（彩色）
- 5 御用鑄錢場圖繪 享保年間（1716-1735）原本 卷子

【数学】

- 1 算法發隱評 白石長忠撰 附池田貞一等撰 文政六（1823）記 原本
- 2 一辭整數術 會田安明編 原本
- 3 塵劫記 吉田光由撰 寛永版二種

- 4 オクダント用法記 本多利明撰 二巻図式一卷 三冊 原本
- 5 貞享暦 澁川春海撰 原本
- 6 南部暦 二種

## 【理学】

- 1 古今彗星志 (和蘭) 思多類狐撰 高橋景保・澁川景譯編 七巻附一卷 八冊 原本
- 2 歌仙百錦集 鶴岡蘆水画 天明二 (1782) 刊本 (彩色)
- 3 北蝦夷草木譜 原本 (彩色)
- 4 群分品彙 玩硯亭主人編 天保七 (1836) 序 二巻 卷子

## 【医学】

- 1 山科道安日記 二巻二冊 写本
- 2 含章齋腹診録 和田泰純 (東郭) 講 門人筆記 二巻二冊 京都交修社 嘉永三 (1850) 刊本 (絵入)
- 3 解剖存眞圖 南小柿寧一圖 二巻 写本 卷子

## 【工学・兵学】

- 1 戸山屋敷繪圖 写本 (彩色)
- 2 佐渡鑛山金銀採製全圖 二巻 写本 (彩色) 卷子
- 3 大坂陣繪圖 写本 (彩色)
- 4 信州川中嶋合戦之圖 写本 (彩色)
- 5 關ヶ原合戦圖 写本 (彩色)
- 6 新法火術圖 高島秋帆 (舜臣) 図 写本 (彩色)
- 7 隨心流執御全書 弓場荻右衛門撰 四巻 写本 (彩色)
- 8 諸家御船印 写本 (彩色)

## 【大藏経】

- 1 西藏大藏経 デルゲ版 三一七帙 1732開版

## 【漱石文庫】

- |                                      |                            |
|--------------------------------------|----------------------------|
| 1 渡航日記 手帳 明治33年9月～11月                | 14 金の貸付簿                   |
| 2 滯英日記 当用日記 明治34年5月                  | 15 貸した本                    |
| 3 滯英時代の断片 明治34年4月                    | 16 小遣帳 大正3年12月             |
| 4 [俳諧] 手帳の断片 明治38, 9年頃               | 17 身長体重メモ                  |
| 5 手帳の断片 明治39, 41年頃                   | 18 学生時代答案 明治20年頃           |
| 6 手帳の断片 明治41年6月                      | 19 ブッセ教授への別離の挨拶 英文草稿 明治25年 |
| 7 手帳の断片 明治42年1月頃～7月頃                 | 20 博士号辞退書簡 下書き 明治44年2月     |
| 8 当用日記 明治42年4, 5月                    | 21 道草 草稿九葉 大正4年            |
| 9 長与胃腸病院入院日記 明治43年                   | 22 句稿 (子規点) 一幅 明治29～30年    |
| 10 修善寺大患日記 明治43年                     | 23 「穴のある銭が袂に暮の春」 短冊 大正初期   |
| 11 日記 明治44年                          | 24 漱石デスマスク レプリカ            |
| 12 “Vain beauty” by Maupassant. 1904 | 25 漱石先生 岡本一平画 水彩 一幅        |
| 13 “Hamlet” by Shakespeare. 1899     |                            |

## 【洋書】

- 1 “Marx Karl. Misere de la philosophie : reponse a la philosophie de la misere” “de M. Proudhon. Paris et Bruxelles 1847”
- 2 ニーチェの書簡 一通 バーネット博士宛 1884
- 3 アインシュタインの書簡 二通 土井晩翠宛 1922
- 4 フーリエの直筆メモ

## 要項等の制定について

### 東北大学附属図書館二次情報データベースサービスの利用に関する実施要項の制定について

平成9年4月から、利用者へのサービスとして実施している図書館二次情報データベースサービスの利用に関する実施要項をこのたび下記のとおり制定した。

#### 東北大学附属図書館二次情報データベースサービスの利用に関する実施要項

平成9年11月12日制定

##### (趣 旨)

第1条 この要項は、東北大学附属図書館（以下「図書館」という。）にデータベースサーバー等を設置して行う図書館二次情報データベースサービス（以下「二次情報サービス」という。）の利用に関し必要な事項について定めるものとする。

##### (二次情報サービス)

第2条 二次情報サービスは、図書館のデータベースサーバーに図書館が導入した文献情報等のデータベースを置き行う検索サービスとする。

##### (利用時間)

第3条 二次情報サービスの利用時間は、原則として24時間とする。ただし、附属図書館長（以下「館長」という。）が必要と認めたときは、利用時間を変更することがある。

2 図書館での利用時間は、図書館の利用規定によるものとする。

##### (利用資格)

第4条 二次情報サービスを利用することができる者は、東北大学（医療技術短期大学部を含む。）の教職員、大学院学生、学生及び名誉教授とする。

2 前項に定める者以外の利用については、図書館の規定によるものとする。

##### (図書館以外での利用)

第5条 二次情報サービスを図書館外で利用する者は、あらかじめ所定の申請を行い、館長の承認を得なければならない。

2 前項の申請は、利用に伴う課金が校費振替で行うことができる者とする。

3 第1項により承認を受けた者が次の各号の一に該当するときは、速やかに館長に届け出なければならない。

- (1) 東北大学以外への異動又は卒業等により、本学構成員でなくなったとき。
- (2) 二次情報サービスの利用を中止するとき。
- (3) 第1項による申請書記載事項に変更が生じたとき。

##### (課 金)

第6条 図書館以外での利用に伴う課金に関しては、図書館商議会の議を経て、別に定める。

##### (遵守事項)

第7条 二次情報サービスの利用者は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 図書館と二次情報サービスに係るデータベース供給者との間で定められた事項に反する行為を行わないこと。
- (2) システムの保全及び安定稼働に関して、障害となる行為を行わないこと。

##### (利用の制限)

第8条 利用者が、前条に掲げる事項に違反したときは、その利用を中止又は制限することがある。

##### (雑 則)

第9条 この実施要項に定めるもののほか、二次情報サービスに関し必要な事項は、館長が別に定める。

## 東北大学附属図書館本館利用に係る申請書等の様式の一部改正について

このたび、「押印見直しガイドライン（平成9年7月3日事務次官会議申し合わせ）」に基づき、本館における諸届様式の見直しを行い、利用者の手続きの簡素化を図るため、「東北大学附属図書館本館利用に係る申請書等の様式について」の一部を改正した。

## 人 事 異 動

平成9年12月1日現在

| 発令年月日   | 旧 官 職  | 氏 名     | 新 官 職    | 備 考  |
|---------|--------|---------|----------|------|
| 9.10. 1 | 附属図書館長 | 真 野 伸 枝 | 情報管理課受入掛 | 新規採用 |
| 9.12. 1 |        | 小 山 貞 夫 |          | 併任解除 |
| "       |        | 小 田 忠 雄 | 附属図書館長   | 併 任  |

## 会 議

### ◎学 内

9.10.23 平成9年度川内地区図書委員会

#### ○議 題

- (1) 平成9年度特別図書の購入について
- (2) 特別図書購入費選定額の算出法（案）について

9.11. 4 電子情報データベースサービスに関する検討委員会

#### ○議 題

- (1) 二次情報データベースについて
- (2) 電子ジャーナルの導入計画について

9.11.10 平成9年度分館長会議

#### ○協議事項

- (1) 平成9年度図書館資料費予算追加配分（案）について

#### ○報告事項

- (1) 平成10年度データベース計画調書について

(2) 東北大学自己評価報告書について

(3) 狩野文庫のカラーフォトCD化について

(4) 国立七大学附属図書館協議会等について

(5) 事務組織の見直しに関する検討委員会について

(6) 各分館の状況について

9.11.12 平成9年度附属図書館商議会

#### ○協議事項

- (1) 施設の将来構想に関する検討委員会（中間報告）について
- (2) 漱石文庫のフォトCD化について
- (3) 附属図書館ホームページへの貴重資料解題の電子的展示について
- (4) 電子情報データベースサービスに関する検討委員会の検討結果について

○報告事項

- (1) 平成10年度データベース計画調書について
- (2) 東北大学自己評価報告書について
- (3) 狩野文庫のカラーフォトリソ化について
- (4) 平成9年度図書館資料費について
- (5) 国立七大学附属図書館協議会等について
- (6) 事務組織の見直しに関する検討委員会について
- (7) 各分館の状況について

◎学 外

- 9.10. 2～3 第29回国連寄託図書館会議  
(於：北海道大学)
- 10.15 第30回国立七大学附属図書館部課長会議  
(於：名古屋大学)

- 10.16 第71次国立七大学附属図書館協議会  
(於：名古屋大学)
11. 5 国立大学図書館協議会常務理事会  
(於：大阪大学)
11. 6 著作権特別委員会 (於：大阪大学)
11. 6 国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会  
(於：大阪大学)
11. 6 国立大学図書館協議会理事会  
(於：大阪大学)
11. 7 国立大学図書館協議会と学術情報センターとの業務連絡会 (於：東京大学)
12. 2～3 国立大学図書館協議会シンポジウムについて (於：東京工業大学)

---

## 編 集 後 記

街路地の木々の葉が落ちてしまい、本格的な冬のシーズンを迎えた仙台も、先日初雪が降り近年になく積雪があったため、ドライバーにとっては慌ただしい一日となったようです。

今年も暗い事件が目立ちましたが、日本サッカーがワールドカップへの出場権を得たことが国民にとって明るい話題として残りました。

附属図書館では、電子図書館化を進めるため委員会を設置し、その実現にむけて館員一同努力しているところです。

また、本館が所蔵する国宝・貴重書等を広く公開することを目的として検討をしてきましたが、このたびWWW上に「貴重書展示室」を設け、12月1日から一般に公開することになりましたので、是非御覧いただきたいと存じます。

今年一年間、当館報の発行に当たり執筆いただきました皆様に心から御礼申し上げますと共に、読者共々皆さんにとって来年も良い年でありますよう祈念いたします。(F)

---

東北大学附属図書館館報「木這子」 第22巻第3号(通巻80号) 発行日 平成9年12月31日

発行人 辻 英雄 広報委員長 谷内 聡

発行所 東北大学附属図書館 仙台市青葉区川内 電話 022-217-5910